

特別活動の課題と改善の一考察

－生徒会活動と学校行事を焦点に－

附属中等教育学校 石橋 太加志

The subject of extracurricular activities, and consideration of an improvement

Takashi ISHIBASHI

There was little research of the method of instruction of extracurricular activities, and I considered the teaching-materials development which can be especially conscious of student council activity, committee activity, and relation of a school event by this research. I examined qualitatively how the college student's consciousness changed by taking in discussion and a role play. Agreement formation was difficult for the first time about the dissatisfaction about a setup of a role play, or the contents which should be examined.

Next time, after adding examination, I discussed with the role play. As a result, the meaning which sets up the theme of an event was visible and he could be conscious of student council activity, committee activity, and relation with a school event. Moreover, not only instruction but consideration was added to the student in the relation to the individual role of a student.

Keywords 特別活動 生徒会活動 学校行事 質的研究 グループ活動

目次

問題と目的
方法
結果
考察
今後の課題
引用文献

問題と目的

先輩教師の技を盗み、教職経験を重ねるにつれて熟練教師になるという、教師の成長過程は、今後十分に機能しなくなると考えられている。それは社会の中で団塊世代の大量退職時代を迎え、教育の世界でも熟練教師が激減することが予想されているからである。教職経験を単に重ねるだけのルーティン熟練ではない適応的熟練教師（秋田 2004）がこれからの学校に求められているとしている。こうした教師を育成するために、現職教師を対象とした研究研修はもちろんのこと、教員免許状取得を目指す大学生にも目が向けられている。

我が国の教員養成は「教員養成は大学で行う」、「教

員養成の開放性」という二つの原則に基づいて行われている（福嶋 2006）。文部科学省平成24年度8月の中央教育審議会答申「教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の教職課程の質保証の項目で、学生が修得すべき知識・技能を明確化し、「何を教えるか」よりも「何ができるようになるか」に重点を置くべきであるとしている。中山（2008）は、「教職課程の目的は、教師としての資質能力の基礎を養う」としている。

ところが、教職課程の課目「特別活動の指導法」が十分に研究されてきたとは言い難い現状がある。その理由は、後述の通りである。それは、特別活動自体、教職課程科目導入が他の教職科目に比べて遅かったことと、先行研究の数による。

教職課程の中に「特別活動に関する科目」が設けられたのは、昭和62年の教育職員養成審議会答申「教員の資質能力の向上方策等について」を受けて、平成元年、教育職員免許法が改正されてからである。平成10年に同法の改正により、「教職課程及び指導法に関する科目」の中で「特別活動の指導法」に関する事項を履修することになった。つまり、平成元年以降ようやく、従前より設けられていた道徳教育を除き、教職課

程において、教科以外の活動の指導に関する内容を履修することが義務付けられたのである。

特別活動に関する先行研究について、以前からの先行研究の数と、文部科学省（2008）の中学校学習指導要領解説以降の研究の数について調べた。日本語文献について、特別活動、生徒会活動、学校行事、ロールプレイをkeywordsとし、データベースCitation Information by NII (CiNii) で検索した。その結果、「特別活動」では、1872件（2008年以降では974件）、「特別活動、生徒会活動」では27件（同6件）、「特別活動、生徒会活動、学校行事」では、10件（同2件）、「特別活動、生徒会活動、学校行事、ロールプレイ」では0件（同0件）であった。校種に着目すると小学校の特別活動の研究が最も多く、中学校の研究、高等学校の研究の順に少ない。

石田・古賀・三村・藤田（2004）は、昭和24年に教育職員免許法が制定されて以来、生徒指導、特別活動、道徳教育など教科以外の活動の指導に必要な教員の資質能力や、教職課程においてどのように資質能力を育成するかについて研究が十分に行われてきたとはいえないと報告している。

その中で、中山（2007）は、教職課程科目を履修する大学生の志望意識の変容について事例的に検討し、「教職への強い志望意識が形成された学生は、はじめから教職に就きたいと考えていたわけではなく、教職への憧れを抱かせる授業内容と、学生を認め、誉め、励ます担当教師の基本的な姿勢と、教育実習体験である」としている。さらに中山（2007）は、教職への強い志望意識を育てるか探求していることは、教職課程教育の一つの課題としている。中村（2006）は、教職課程の質的水準向上のために、以下の視点から授業を総合的に評価し改善に活かしたとした。(1)授業後の学生によるアンケートの活用(2)現場の状況を具体的に理解するために、視聴覚教材の活用(3)参加型学習の機会を多くするため、グループディスカッション、プレゼンテーション、パネルディスカッション、意見交換等の機会を設ける(4)限られた時間数の中で可能な限り、一人一人の学生のニーズに対応するため、出席カードの裏面等を活用し、学生の質問等に次の授業の中で答える等、きめ細かい配慮を設ける(5)授業以外に任意参加の形で学校見学や施設、福祉機器企業見学などの機会を設ける(6)外部講師として、企業や福祉施設の職員の支援を仰ぎ連携を深める。

中村（2007）、中村（2006）は、教職課程学生の調査であり、特別活動自体の授業の中での研究ではな

い。福寫（2006）は、教職課程科目「特別活動論」の授業改善にグループ学習を取り入れた。個々の学生の感想は一部報告しているが、グループごとには分析していない。グループ間の話し合いの質が均等ではない可能性については検討していない。また、検討材料は、1講義だけであり、大学生に任されるのではなく、講義担当者が検討課題を与えた。

本研究では、教職課程科目「特別活動の指導法」の質的水準向上の効果的な方法を検討する。学生の意識がどのように変化をするのかを質的に検討するために、検討講義は連続する3回とする。方法は、中村（2006）で用いた、授業後のアンケート、グループディスカッション、学生の質問に答える、視聴覚教材を採用する。グループ間で話し合いの質が均等であるかどうかの検討するために福寫（2006）の用いた、グループ間での記述を検討する。また、他の先行研究では見られないロールプレイを採用する。特別活動の講義の中で大学生がどのようなことに課題を抱え、講義の中で取り入れた講義方法の効果について検討する。

方法

手続き

データの収集および倫理的配慮

A大学で教職課程学生59名の毎回の講義の中での活動や考え、感想などを記述してもらい、それを講義の評価のために残していた。毎回の記述データについては、個人が特定されない形で研究・発表に利用させていただくことを承認し、協力を申し出た学生33名分を研究に使用する。なおこの判断については、研究者の所属である東京大学で倫理審査をしていただき許可を得た（東京大学倫理審査番号12-40）。

対象のA大学は、教員養成系大学ではなく、学生は専攻学科の学問に加えて、教職課程を履修する総合大学である。大学全体の学生数に占める教職課程受講学生数は多くないものの、近年教職課程を受講する学生が増えている。

講義計画はTable.1に示す。

講義①では、まわりの学生の中でグループ（3名～5名）をつくり、自己紹介をするという課題を課した。1人2分の時間で自己紹介をするという設定で、自己紹介文の下書きをかいてもらった。所属を消去すると自分のいいところがなく、欠点などが多くなってしまっていた。良いところを「みていく」ということが学校現場では大切なことであるので、良いところを5つ入れ

Table.1 講義計画

講義	講義項目	活動内容
①	特別活動の指導法	オリエンテーション・概論・自己紹介
②	生徒会活動概論	自己紹介・グループづくり・グループディスカッション・生徒会活動振り返り（生徒の視点中心）
③	生徒会活動と委員会活動	自己紹介・グループづくり・グループディスカッション・生徒会活動振り返り（教師の視点中心）
④	生徒会活動と学校行事（本研究）	文化祭または体育祭づくり（グループディスカッション・ロールプレイ）
⑤	生徒会活動と学校行事と委員会活動（本研究）	文化祭または体育祭づくり（グループディスカッション・ロールプレイ）
⑥	生徒会活動と学校行事と委員会活動（本研究）	ある学校の実践ビデオ
⑦	生徒会活動とホームルーム活動のまとめ	生徒会活動とホームルーム活動の有機的なつながり
⑧	ホームルーム活動	出身校の振り返り等（グループディスカッション）
⑨	ホームルーム活動の課題	年間スケジュール等
⑩	ホームルーム活動	学級委員を決める等（グループディスカッション・ロールプレイ）
⑪	ホームルーム活動	声掛け（グループディスカッション・ロールプレイ）
⑫	ホームルーム活動と生徒指導概論	生徒を「みる」とは
⑬	ホームルーム活動と生徒指導概論	アセスメントデータから生徒を「みる」
⑭	ホームルーム活動	「問題のある」生徒を「みる」とは
⑮	ホームルーム活動計画	生徒をよく「みて」学級経営を意識した活動
⑯	まとめ	レポート作成

Table.2 講義④⑤⑥における活動や活動設定

講義	活動設定
講義④	中学校の学校行事の中から文化祭、体育祭のどちらかを選択する。 学校の規模は、1学年40名3学級（3学年12学級全校360名）とする。 相応の学校教師が配置されているものとする。 行事を一からプランニングする。 教師役（3名程度）生徒役（生徒会役3名程度）観察者（2名程度） グループ名（チーム名を決める）
講義⑤	テーマ設定、何を議論するかを絞ってから議論する。 講義④の設定およびそのときの議論を活かす。 教師役、生徒役、実行委員会委員役 今回は観察者なし グループごとに発表をする。
講義⑥	実践ビデオ 中学高校一貫校での文化祭の開会式の一部を見せる。 （視聴覚機材による実践例） 感想や考えを記述する。

て書き直すように指示した。以後毎回のグループでは簡単な自己紹介を経て活動に入ることが多くなった。

講義④⑤⑥の活動や設定を Table.2 に示す。その際、ディスカッションやロールプレイで細かな設定をしなかった。そのねらいは、学生自らの発言や活動の中から自由に感じることでさまざまな可能性を感じたり、より多くの問題を抱えていることを実感出来ればと考えたからである。わずかに数回の講義で学校現場に対応し得るだけの教職実践力を蓄えることは難しい。しかし他の教職科目同様に考えていく方向性を多少なりとも学生自身がつかみ取ることができればと考えた。

結果

グループ作りの前の講義③における受講学生の記述

「グループ活動で取り組んでみたいこと」を Table.3 に示す。記述から「ロールプレイ」「経験者との共有」「生徒会のメリット」「教師側の評価」「教師の成長」「教師の指導」にカテゴリー化できた。グループ活動に前向きな記述が多く、ロールプレイについても意欲が感じられる記述がほとんどであった。

講義④の中で、近くに着席していたメンバーでグループ分けをした。講義の中では 8 つのグループに分かれたが、記述データ協力学生が所属するのは Table.4 に示した 5 グループであった。チーム 1 だけが体育祭を選択し他の 4 チームは文化祭を選択した。

本論文では、チーム番号を 1～5 としたが、実際にはチームごとに好きなチーム名をつけた。これは、グループ活動の最初に、和やかに活動に入れるであろうということと、この話し合いは、次の講義でも継続す

Table.3 グループ活動で取り組んでみたいこと

グループ活動で取り組んでみたいこと (記述の一部)	カテゴリー
生徒側の提案を認めてあげられない場合 ロールプレイ 生徒役教師役関しフィードバック役生徒の立案に対して練習。 学校美化計画のように生徒指導の具体的な場面の例についてグループで指導案を作る。	ロールプレイ
経験者の話を聞きたい。 生徒会経験者がどんな人だったか皆に聞いてみたい。私を知る生徒会委員は人望が少なく少し変わっている印象の人が多いためリーダーシップ性を育てるという点に疑問 実際の様子を経験者から話を聞きたい。	経験者との共有
他の生徒に何のメリット 役員以外の生徒も生徒会活動を利用して生長するように指導できるか。 何をしているのか分からない生徒会のイメージを変えるにはどうしたらよいか。 生徒会は何のため誰のために設けられているのか。 生徒会役員だけの成長を意図しているのか。 先輩を見てどのようなことを学んできたか。	生徒会のメリット
通知表でどう評価するか。 評価をどう生徒にフィードバックするか。	教師側の評価
校務分担の理想的なあり方 公立学校での移動の短縮化が教師の経験の蓄積を阻害するのではないか。	教師の成長
生徒会運営に対する教師の役割や指導法について議論してみたい。 特別活動の指導に関する教師への指導の仕方	教師の指導

Table.4 チームごとに取り組む学校行事

チーム (講義④)	行事 (講義④)
1	体育祭
2	文化祭
3	文化祭
4	文化祭
5	文化祭

るため、仲間として意識し、活動しやすくなるようにということと、チームに愛着が持てるようにと工夫した。実に魅力的な名前である。

講義④における、グループで行ったロールプレイを、グループごとに記述を分析し、カテゴリーにまとめたものが Table.5 である。

講義⑤におけるロールプレイ後の記述をグループごとにカテゴリー化しまとめたものが Table.6 である。

Table.5 講義④におけるロールプレイ後の記述

チーム	感想記述例 第1回ロールプレイ	カテゴリー
1	お金の話が出てきたので最初に先生に予算を確認しなければならなかったと思った。	生徒の活動場面の難しさ
	中学では先生に予算交渉をする事はあまりないかも	
	何の競技をするかは教員にとってはあまり重要ではなく練習時間確保授業時間の検討が問題	教師の指導の観点
	生徒側も生徒になりきれていなかったから比較的先生が生徒の要求を受け入れていた。午後の授業をなくすことに関しても強くダメと言われなかった。	
	中学校の生徒会の生徒に後輩や同級生に活動を通して何を感じて欲しいかを求めるべきということに驚きを感じました。自分の学校はそうでもなかったのです。	
先生にとってあり得ないことが平然と飛んでくるのかなと思いました。大学生であってもそうなので本当の中学生であればさらにひどいのかなと思いました。どのように納得させたか。	観察者の難しさ	
いざ観察者に徹するとなると意見も出来ないので整理も難しかった。突っ込みどころ満載。		
セッション2では少し表面的なところにかかずり過ぎて不完全燃焼は仕方ないにしても話したらなかったです。最初の設定をもう少し詰めておきたかったと思いました。	ロールプレイの不満とこの問題の深さ	
2	生徒会がすべて企画するのは大変。	生徒の活動場面の難しさ
	生徒側の意見は何をやるかどう見せるかという表側のことを中心とした意見が多く生徒は自分たちがやりたいことを列挙して考えていた。	
	もっと教師が裏方で協力すべき	教師の指導の観点
	教師側は必要な予算人員など運営面に気を配っていた。	
裏方の校務や具体的方法に関する考え方が甘いので教師としてその点を正していかなければならない。	企画運営の問題	
何もないところから行事を組織するのは決めることが沢山あり大変なことだと思った。企画の票にたったところだけでなく片付けや裏方などは忘れがちだけど組織する上で大切な点だと気付いた。		
3	衛生面で模擬店が問題となるのは想定していたが「では何なら出せるのか」という線引きでポテチや御菓子類で取り分ける行為はやはり衛生面で危険を伴うるので結局飲み物だけになりそうで当初やりたかった喫茶店というよりただの飲みもの屋に制限されてしまうとはやや意外だった。	活動を通じての生徒の気持ち
	生徒は連年の状況を尋ね枠組みを作ることが多い。	
	なぜ模擬店の出店がダメなのか理由説明が難しい。	直接の生徒指導場面の難しさ
	先生は事務手続き的指導が多い。	
	「高校ならよけれど中学ではだめ」というのも、では現実的な落としどころをどのあたりにするのかは実態としてどうなっているのだろうと大変関心がある。	

	<p>多くのことは「例年通り」で行われ、少しずつ改良（改悪？）していくものなのだと思うが、その枠が与えられなかったのでロールプレイしにくかった。ゼロから話し合うには時間が全然足らず。</p> <p>模擬店の衛生面など大学生でも思いつく論点の議論に終始し、学ぶものがなかったように思える。</p>	<p>ロールプレイの 不満とこの問題 の深さ</p>
4	<p>前夜祭をやりたいという生徒会の希望に対して先生がもし酒を飲んだり騒いんだり羽目を外したら退学OR停学処分だよと答えた。これはある種の脅しによって生徒を抑制しようという意図だがそれよりは前夜祭を安全に実行できるようなルールづくりを生徒自身に促すような姿勢の方が良かったと思う。</p> <p>先生役、生徒が何をやりたいかということも大事だが先生は先生として果たさなければならない責任がある。安易な同調より職務の難しさを感じた。</p> <p>教師は生徒の提案にyesかnoと答えるのではなくてその提案を現実化するためにしなければならぬルールや手続きを生徒自身に考えさせることが大切だと感じた。もちろんその上でnoという必要があるときははっきりとnoといわなければならないか。</p>	<p>直接の生徒指導 場面の難しさ</p>
	<p>自分は生徒の役割だったが生徒の立場から教師を見ていると生徒の主張に対して教師が一つ一つ悩んでいるのがよく分かった。</p>	<p>生徒指導場面で の教師の悩み</p>
	<p>また教師の中でも複数の意見があるようだった 具体的にはなるべく生徒のやりたいことをやらせてあげたい先生と少しでも危険なことは絶対にやらない方がよいという先生の意見の相違があった。</p>	<p>同僚との連携の 難しさ</p>
	<p>他の先生と意見が違ったときに難しい その先生が動機や後輩ならまだよいだろうが先輩だったら？</p>	<p>同僚との連携の 難しさ</p>
5	<p>もう少し広い視野で先生は考えて欲しかった（なぜスタンプラリーをやるのか？）（生徒役）。</p> <p>生徒と先生の対立が意外と少なかった。先生も一緒に考えている感じだった（良いか悪いかはさておき）。</p> <p>なぜ食品でなければならないのか、目的が生徒側から聞かれなかった。</p> <p>とっさに答えるのが難しかった（教師役として）。</p> <p>もんだ点をくまなく見つけるのが難しい（教師役として）。</p> <p>教師は俯瞰的な視点をもって生徒が気付いていないことを積極的に指摘できると良かったのではないか。</p>	<p>直接の生徒指導 場面の難しさ</p>
	<p>これについて議論するというはっきりした対象が見いだせないことには話のかみあいにくい所が出てくる。</p> <p>細かい設定が共通理解としてなされていないので議論となるには時間が必要だが役に足りるのは楽しい気がした。</p>	<p>ロールプレイの 不満とこの問題 の深さ</p>

Table.6 講義⑥におけるロールプレイ後の記述

チーム	感想記述例 第2回ロールプレイ	カテゴリー
1	生徒目線からはなかなか出てこないような視点から指導をする、先生も一緒に楽しむことを大切にしつつ、生徒の自主性を重んじるというバランスの難しさを感じました。	生徒指導場面の難しさと生徒への配慮
	最も印象的だったのは先生（研究者）の主役は生徒であると言っていた言葉でした。しかも生徒は生徒でも一部の生徒ではなくて数多くの生徒が参加できるように、楽しむことが出来るように数多くのことを得ることが出来るようにと考えなければいけないと感じた。	
	文化祭、体育祭準備は課外の時間をあてることが多いので生徒に強要するのは難しい。	
	テーマを決めることが非常に難しかった。少ない言葉で長いメッセージを込める必要があるからだと思う。生徒だけで決めることはなかなか難しいと思いました。	テーマの意義と決定の難しさ
	ただ色々決めるときにテーマという方向性があるのは非常に助かりました。イベント全体の一貫性を作るためにもテーマが存在する意義はあると思います。	
	種目の一つ語り合うにも決めるべきことがあとからあとから出てきて一つの協議を生徒の意見をベースに練り上げていく難しさを感じました。	検討事項が実際のどのくらいあるのか
各人やはり見えていることが異なるものであり議論を尽くし互いの意見を忌憚なく出すことこそが成功への近道であると感じた。「大人である」事の長所を存分に活かし指導していくことが重要なのではないだろうか。	同僚との連携への示唆	
出身中学高校では競技の枠組み自体を決める余地はなかったので新鮮でした。	出身学校の振り返り	
大学生でロールプレイを行っても中学生のでの議論においても現れる問題点が起きておもしろい。	ロールプレイの課題解決とは	
今回は1つの事に論点を絞りながら2回のセッションを出来て前回よりも議論がしやすかった。また実行委員会という立場が増えたことで具体性が増え、これも議論がしやすかったことも一因。		
演劇は文化祭の中でもありがちな企画と思ったが考えることが多く大変なことが分かった。	検討事項が実際のどのくらいあるのか	
話しこんでいくうちにさまざまな問題が出てきて意見を一つにまとめるのは難しいと感じた。ある程度型にはめてこういう枠の中でやってくれとなればスムーズに行くがそれだとマンネリ化する恐れがある。準備感はかなり必要なのだろう。		
下級生と上級生で文化祭の関わりに強弱があっても良いと思う。	生徒指導場面の難しさと生徒への配慮	
生徒会や教師の間であらゆることを決めてしまえば企画を進めるのは簡単になるけれど生徒の自主性が失われてしまい文化祭ではなくなってしまう。		
自分自身が規律が厳しい中学校出身だったので生徒に裁量権をも認めるプランに抵抗感が強かった。	出身学校の振り返り	
具体的な指導の題材について何を選ぶかで議論が迷走した。各々が想定する演劇が異なったので難しかった。	特別活動の指導観が個人体験を土台にしている	
個人的経験が特別活動の指導において重要となってしまうことを体験から学ぶことが出来た。		

	<p>文化祭という非日常的時間において異性への関心がどのような形で表れてくるかそれに教師がどう対処するかは重要なポイントであると感じた。むやみに抑圧したくないが、過度に性的な面が押し出されたり、傷つく生徒が出たりするような状況は避けなければならない。</p> <p>今回は前回の生徒役から教師役に変えて教師は悪い事態をさまざまに想定して状況に対応しなければならないのだと難しさを改めて痛感した。</p>	生徒指導場面の難しさ
3	<p>また性同一性の点で配慮すべき生徒がいなくとも今回は話題に上らなかったが重要なポイントだろう。</p> <p>生徒と上手くコミュニケーションをとれて何とかいけそうだという手ごたえをつかめたときの達成感もその分味わった。</p>	生徒への配慮(特別支援)
	<p>ロールプレイに際して変数が多すぎると感じた。結果内容が薄くなっていた気がするので固定条件を増やした方が良いのではないかと。</p> <p>こんなに短時間のロールプレイであるにもかかわらず感慨深いものもありました。</p>	擬似体験から達成感や欲求
	<p>one for all, All for onetoiute というテーマを選ぶ班が複数存在して驚いた。</p>	テーマの決定とその意味
	<p>生徒会は全体の数%しかならず全体をどうつないでいくかは重要に思う。</p>	生徒への間接的指導の難しさ
4	<p>各家庭の経済状況を配慮して教師からは「もってきてよい金額の上限(1000円など)を決めてはどうか」と提案したが、生徒からはテーマをもちだして上限額を設定したくないと教師役としては反論されて困った。</p> <p>自分の班で「現金を遣いたい」という主張が困った。</p>	生徒への直接指導の難しさ
	<p>教師が和やかに対応していたので穏やかなセッションになったが教師同士の検討、生徒会→実行委員会の持ちかけ等ロールプレイとして不足することもあった。</p>	擬似体験から達成感や欲求
	<p>テーマはやはり副題を付けるなどしてもっと具体性が高い方が良かった。</p>	
	<p>one for all, All for one という漠然としたテーマから何を生徒に学ばせたいかという問題が議論の中心になったが生徒会ではここまで深く考えてテーマを決めていたのかと勉強になった。文化祭全体のテーマがどの程度個々の規格の内容を拘束するのが気になった。</p>	テーマの決定とその意味
	<p>学校によって文化祭を動かしていく制度が違う中、場面を設定するのがかなり難しかった。それに時間をとられて話し合いが十分に進まなかった様な気がするのでそこは少し残念だった。</p>	
5	<p>話し合いの段階から人間形成の場だと認識(ネタばらし)させても良いのかどうか。教師をまきこんだ企画→教師側だけ職員会議で否決→結局生徒だけがやるはめに・・・とはならぬだろうか。</p> <p>教師側の視点として、金銭面安全面いじめが出ないようにといったもの考える必要があると思うがどのように指摘の独創性を出すのだろうか。あるいはその必要はないのだろうかと考えた。</p>	生徒への指導の難しさと生徒への配慮
	<p>生徒が主役という事と客からみた視点を大事にすることは本当に相反するのか?と思った。</p> <p>観客の視点をそこまで考えぬ理由が良く理解できなかつた。発表会ではなく祭りなのだという視点はどうか。</p>	生徒が主役とは
	<p>各人がやや役になりきれておらず生徒役教師実行委員の話し合いという話し合いにならず議論が進みづらい雰囲気になった。</p>	ロールプレイの課題

Table.7 講義⑥実践ビデオのあとの記述

チーム	実践ビデオ後の感想の一部	カテゴリー
1	<p>教員は人間性を求めすぎることには批判もありますが大きなもの困難なことにぶつかったときに生徒は先生を信頼し手がかりを得ようとするということ、それは教科学習に限った話ではなくともすると生徒の人生観に影響を与えることもあるのだと思いました。私自身も実感があります。責任は重いけれどその分貴い役割だと思います。</p> <p>テーマが絆に決まって被災地と関係があったとしても身近な新聞やインターネットで情報を得ようとしたほうが楽である。ボランティアで東北に行って自分の目で確かめてきたことが誉めるべき行動力だと思った。</p> <p>高校生だからこそのなのか、ここまで担任のことについてまじめに考えることは私にはできないと思う。自身に際しても積極的に関わらんとしたことは一切なく募金等も一切行わなかった、深く考慮することもなかった上っ面の感情論だけでなく高校生なりに深く考慮を重ねたことが見てとれた。今回お話しいただいた文化祭でも確かな絆が沢山生まれたのだと思いました。</p>	<p>教職について 生徒の活動から 感じる心</p>
2	<p>前回の授業で最初に絆というテーマを提起したチームに参加していたがあの安易な提案から生徒たちは自分自身でここまで考えることが出来るのかと驚いた。</p> <p>今日の発表を聞きテーマを決めそれにしっかり取り組むことで生徒が成長するであろうということを実感できました。</p> <p>こういった学習は教科教育ではなく特別活動を通してのみ達成しうるものであり非常に有効な事例だろう。</p> <p>生徒会の活動ややりたい人がやっているだけだと中高生の頃は思っていましたがこの授業を通して生徒の観点を反映した学校行事を行うためには生徒が必要だと感じるようになりました。</p>	<p>生徒の活動から 感じる心 活動の意義</p>
3	<p>生徒の思いを伝えるためには相応のセッティングが必要であること、連携が必要であること、そして何よりも生徒自身が熟考することが重要だと感じた。それらを伝えられる教師になりたいと思う。</p> <p>生徒会活動は今までは別の観点から必要であると感じた。あれほどまでに切実に何かについて考え主張する機会はあまりないのではないかと。生徒の人間成長的な意味で非常に重要だと感じた。</p> <p>率直に感動しました。特に母親を助けることが出来ずにその場に残したまま去らざるを得なかった子が最後に母親に欠けた愛情と感謝の言葉には感極まって涙をこらえることができませんでした。</p>	<p>生徒の活動から 感じる心 活動の観点</p>
4	<p>物事を考えていく過程において「もうこれで十分。これ以上は考える必要はない」と言い切れるような日が来ることはない。生徒は絆という言葉で6ヶ月間考え続けた。もしかしたら考えがまとまってから文化祭を迎えたかった生徒がいるかもしれない。それでも6ヶ月間考え抜いた時点で自分の素直な気持ちを文化祭の場でぶつけたことで大きな達成感が得られた。</p>	<p>生徒の活動から 感じる心</p>

絆をテーマにしたいと生徒に言われたら私だったら頭ごなしに却下してしまいそうな気がしたので生徒の目線に立って対話することを心がけたいと思った。

5

絆というテーマを被災地を見た生徒が伝えるという場合に生徒が何をやるつもりなのかあるいはどうやって伝えようというのか全く想像もつかなかった。

普段の授業や部活動では感じられない学校全体としての一体感や連携、所属意識の様なものを得られる点でも欠いてはならないし、生徒会役員は人の代表をしたり人前に立ったりする経験を通じて将来リーダーシップを発揮していく素質を養うことが出来ると思われるのでこうした行事の指導に対し教師は熱心に取り組み生徒の考え方がより具体性を持って広がるよう努めていくことが大切だと思った。

生徒と向き合う
指導
生徒の活動の
可能性

講義⑥実践ビデオのあとの記述をグループごとにまとめ、カテゴリー化したものがTable.7である。

考察

講義①ではグループ結成・役割分担決め・ロールプレイ・ディスカッション・個人の振り返りを行い、生徒の活動場面の難しさ、教師の指導の観点、観察者の難しさ、ロールプレイの難しさや不満、生徒の気持ち、同僚との難しさが出された。

記述データTable.5では、体育祭や文化祭を考えるにあたって、自己の出身学校での経験が大きく影響してくることに大学生自身気づきは始めている。大学生はロールプレイの中で、合意形成が難しいことを感想にまとめている。その原因は何か気づいていないことが多かった。教育現場において、教師は自己の出身学校の体験や教職での経験に影響を受けている。北神(1997)は、「教師の職務の遂行過程は、常に教師自身の全人格が関与しており、教師に獲得された専門的な知識や技術は常にその人格と一体となって機能する」としている。

教育現場の教師がそれぞれの観点からの発言し、なかなか合意形成には至らないことがみられる。これが「同僚との連携の難しさ」の一因である。

Table.6の記述では、ロールプレイにおいて、行事のテーマ設定をおこなった。テーマにそって行事が取り組まれ、テーマにそって、教師が指導していくのである。この講義④を振り返りを、講義⑤の冒頭で、学生の記述をいくつか紹介する中でテーマの設定と、時間に限りがあるので、何を議論するかを絞って話すように指示をした。

このような、指導の観点や、教師の方針、ロールプ

レイの問題解決を図るテーマ設定や、2回に分けて途中経過を確認しながらのロールプレイという設定、観察者がじれていて、話に加わりたいという意見を入れて、生徒側の行事運営の実行委員会委員の役を入れた。大学生の自主的な設定は、大学生がこれらの擬似的な活動を通して、生徒会活動と委員会活動、学校行事の3つを切り離すものではなく、生徒を巻き込みながら結び付けていくことが必要であることを導いたのである。

本研究では、グループ活動(ディスカッション、ロールプレイ)をとり入れた。この活動が有効であったかについて議論するために、Table.5、Table.6、Table.7でまとめられた各グループごとのカテゴリーを時系列に整理し比較したものがTable.8である。

講義④では大学生が、問題の所在がはっきりしなかった記述が多かった。講義⑤では、記述された悩みや感想がより具体的になった。実際に活動してみて、テーマの意味や意義を実感した班が多かったようだ。生徒役もテーマに沿って議論をしていくので、教師役もそれに沿って議論をする。テーマが有効でも、生徒の指導場面では難しいことがより具体的に実感できたという記述が多かった。中には、教師役として、生徒役の要求を完全にはつぶさないで指導出来たことに、ある種の達成感を感じることができた学生がいた。これらはあくまで疑似体験であるが、受講学生の意識の高さがあれば、かなり具体的に検討できることができると思われる。講義④から講義⑤へと一人一人深まったと考えられる。

また、生徒への指導場面で、テーマに沿った指導の際に、難しい場面では生徒役を気遣う記述が見られた。「生徒への配慮」とまとめたが、こうしたことに

Table.8 講義④⑤⑥と時系列に変化する各グループのカテゴリー

チーム	講義④カテゴリー	講義⑤のカテゴリー	講義⑥感想
1	生徒の活動場面の難しさ	生徒指導場面の難しさと生徒への配慮	教職について
	教師の指導の観点	テーマの意義と決定の難しさ	生徒の活動から感じる心
	観察者の難しさ	検討事項が実際どのくらいあるのか	
	ロールプレイの不満とこの問題の深さ	同僚との連携への示唆 出身学校の振り返り ロールプレイの課題解決とは	
2	生徒の活動場面の難しさ	検討事項が実際どのくらいあるのか	生徒の活動から感じる心
	企画運営の問題	生徒指導場面の難しさと生徒への配慮	活動の意義
	教師の指導の観点	出身学校の振り返り 特別活動の指導観が個人体験を土台にしている	
3	活動を通じての生徒の気持ち	生徒指導場面の難しさ	生徒の活動から感じる心 活動の観点
	直接の生徒指導場面の難しさ ロールプレイの不満とこの問題の深さ	生徒への配慮（特別支援） 擬似体験から達成感や欲求	
4	直接の生徒指導場面の難しさ	テーマの決定とその意味	生徒の活動から感じる心
	生徒指導場面での教師の悩み	生徒への間接的指導の難しさ	
	同僚との連携の難しさ	生徒への直接指導の難しさ 擬似体験から達成感や欲求	
5	同僚との連携の難しさ	テーマの決定とその意味	生徒と向き合う指導
	直接の生徒指導場面の難しさ	生徒への指導の難しさと生徒への配慮	生徒の活動の可能性
	ロールプレイの不満とこの問題の深さ	生徒が主役とは ロールプレイの課題	

今回のロールプレイでは踏み込めたことは評価に値すると思われる。

山口(1999)によれば、本研究のようなロールプレイを用いた教材の教育的意義は、1)作業中から主体的な思考、関与を促す、2)学習内容について実感的な理解が可能になる、3)事象を構成している諸条件の関連を総合的、多面的に把握しやすい、4)意思決定力の育成に関与することができる、5)興味・関心を喚起することができる、とある。安田(2005)によれば、ロールプレイは、講義や問答法に比べて現実の模擬体験をするため、社会事象について一個人の人間としての関与を疑似的に体験させるため、現実世界の構造的理解に学習者を導きやすいと述べている。今回採用した講義方法のアンケート、ディスカッション、ロールプレイがグループごとの検討でも抱えている課題がより具体化したという効果が見られた。水野(2012)は、グループ内の討論と全体討論の両者を組

みあわせた集団的思考過程を「二重討論方式」と呼び、その方式では、集団的意志決定を目指すものがある一方、グループと全体の二重の相互作用を通して、多様な意見や考えを相互交流させ、その過程を通して「学習内容」「人間関係」「自己理解」「社会認識」を深めていく目的を持った活動が顕著にみられたとした。

視聴覚教材の利用

実際に行われた文化祭でどのような活動をしたのか概略を話し、実際録画された映像を一部見てもらった。十分な時間はなかったが、短時間でも、高校生や中学生の取り組みに感動したり、どのようにしてこのように教師が指導したのかという疑問を持ったりした学生が数多くいた。同僚(ここでは同じ大学生)からの個人経験の伝聞だけでなく、擬似的経験(ロールプレイ)をへて、視聴覚教材で実例の体験を増やすことにより、生徒や教師が成功の陰でどのようなやり取

りがあったらどうかという疑問を持った感想が得られた。新たな効果という点で視聴覚教材の利点があると考えられる。

今回は生徒会活動と学校行事さらに実行委員会を登場させて、委員会活動、それを支えるホームルーム活動をも視野に入れて取り組んだ講義教材である。林(2012)は、望ましい集団活動を通して行われる特別活動が、その目標を達成するためには、指導する教師は社会性指導や個人的適応指導など生徒指導の機能を十分に活用して指導する必要があることを指摘した。このことから、教職科目の「特別活動の指導法」が、特別活動の内容に特化したものではなく生徒指導の機能を活かした講義工夫が必要であろうと考える。現在の特別活動は望ましい集団活動を通して行うことを特徴としている(林 2012)。望ましい集団活動とは、文部科学省(2008)、文部科学省(2009)によれば、現在の中学校学習指導要領解説特別活動編、高等学校学習指導要領解説特別活動編を根拠として、「人格を尊重し合ってそれぞれの個性を伸ばしていく活動を行い、民主的な手続きによって集団の目標や集団規範を設定し、協力し合って人間関係を築き、充実した学校生活を実現する活動とする」としている。生徒指導とは文部科学省(2010) 生徒指導提要の中に、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」としている。水野(2012)によれば、特別活動は①望ましい集団活動②自主的、実践的な活動を特質とし、一人一人が学級や学年など様々な集団に属して活動し、「なすことによって学ぶ」ことを通して全人的な人間形成を図るだけでなく、教科等で学んだことを総合化して生活や行動に活かすことで自主的、実践的な態度を育てるという教育上の意義があると述べている。

教職を卒業単位としないのに意欲を持って取り組む学生は、教職志望の多様性(佐藤 1997)があると考えられるが、専門性への関心があるのかもしれない。森田(2006)は、今後は次にあげる3つの社会的要因を考慮すると学生における「専門性」への関心は高まると考えている。それは、(1)企業の動向(2)政府の動向(3)若者の労働観の変化である。企業の動向とは、企業は正規従業員の比率を低下させており(厚生労働省, 2004)、安定的な雇用を得るためには高い就業能力を示すことが一層必要となっている。またニートやフリーターの問題も雇用・労働条件の問題を孕んでいる(小田 2011)。この点、「専門性」を有する職業は、

「資格」等によって特定分野の就業能力を示すことが出来るため、魅力的である。政府の動向とは、高度専門職業人養成を目的として、専門職大学院が数多く開講された(山田 2003)。森田(2006)は、こうした現象に若者に「専門性」を有する職業への就職を動機づける側面があると考えた。若者の労働観の変化とは、バブル経済崩壊後、雇用環境の悪化にもかかわらず、自発的離職の割合は増えている(堀 2001)。これらから、自分に適した仕事を求める若者の姿勢が強くなっていることが推測される。

教員養成系でない大学の教職課程

一般大学で教職課程を履修している学生は、二重構造の教育を受けている(中山 2008)。それぞれの学科等の専門教育の中で創造的な思考方法、思考力を培い、その学科の教育内容を専門として教職への準備教育が施されている。教員免許資格に関わる部分以外の教育科学関連の開講科目数が少ないため、教職課程カリキュラムにおいて効率的に学生の資質・能力を向上させるという命題を課せられている(福寫 2006)。

A総合大学の良さは、様々な学部・専攻科、かつ、様々な学年(学部、修士課程、博士課程)が受講しているために、学生一人一人のバックグラウンドが異なり、ディスカッションやロールプレイにおいても、より学校現場に近い状況で議論できているのではないかと感じた。一般大学における教職課程教育で培われるものとして、中山(2008)は、教職課程履修学生の調査をして、視野の広がり、考え方の幅の広がり、多角的な考え方や思考力、さらにはコミュニケーション力や表現力などの高まりを報告している。こうした良さを活かした、さらなる教職科目の各教材開発や効果研究が求められるであろう。

今後の課題

福寫(2006)が報告しているが、教員1人に対し、1授業で80名も評価を下すのは大変困難であると報告している。今回担当した特別活動の指導法は教員1人に対し、受講学生59名であり、同様に困難であった。

大学教師がグループ・ディスカッションやロールプレイを導入するときの教員側の錬度の問題を検討しなければならない。山口(1999)によれば、大学教員にとっては「対象となる社会的現象の構造的把握とそのシミュレーション教材化という二段階の研究過程」を

必要とし、実践による改定作業を繰り返す必要があるため二重三重の負担となると述べている。実践には、1) ルールの説明をはじめ、時間がかかる、2) 学習段階における位置付けに相当の工夫が必要である、3) 学習者の能力差によりルールを徹底することが難しい場合がある、4) 内容的なまとめに教師の力量が要求される等の問題を抱えている、と述べている。平成24年度中央教育審議会答申の中の教職課程担当教員の養成の在り方に、教科と教職を架橋する新たな領域や学習科学の分野など学校現場の実践につながる研究を深め、必要とされる大学教員を養成する体制整備の推進方策について検討が必要とあり、二重構造を学生が感じないようなカリキュラムも検討が必要であろう。

教職実践演習が2013年度からはじまるが、そのときに特別活動を含めた教職科目の評価をどのように教職実践演習に活かしていくかの検討はこれからであり急務である。

謝辞

本論文の作成にあたり、本研究にご協力いただきました学生の皆さまに心より感謝申し上げます。

引用文献

- 秋田喜代美 2004 「熟練教師の知」梶田正巳(編)『授業の知—学校と大学の教育革新—』有斐閣選書 pp.181-198.
- 福嶋智 2006 教職課程カリキュラムの授業改善に関する事例研究(1)―「特別活動論」におけるグループ学習―神奈川大学心理・教育研究論集25, pp.35-41.
- 林尚示 2012 特別活動の教育課程上の位置づけと生徒指導の場としての役割 東京学芸大学紀要 総合教育科学系 I 63: pp.87-96.
- 堀有喜衣 2001 早期離職転職する若者のゆくえ. 矢島正見・耳塚寛明(編), シリーズ職業とライフスタイル: 6 変わる若者と職業世界 (pp.105-118). 東京: 学文社.
- 石田美清・古賀一博・三村隆男・藤田武志 2004 教職課程における「教科以外の活動の指導」に必要な資質能力に関する調査—教育実習担当教員への調査を通じて—上越教育大学研究紀要, 23(2), pp.473-485.
- 北神正行 1997 「教師力量, 専門性」, 『教育組織の制度と運営』, 伊津野朋弘編著, (八千代出版, 東京), p.98.
- 水野正朗 2012 特別活動の指導における共同的な認識形成に関する一考察 金城学院大学論集 社会科学編 8(2), pp.55-69.
- 文部科学省 2008 中学校学習指導要領解説特別活動編 p.6
- 文部科学省 2009 高等学校学習指導要領解説特別活動編 p.6
- 文部科学省 2010 生徒指導提要 p.1
- 文部科学省 2012 中央審議会答申「教職生活の全体を通じた教員

の資質能力の総合的な向上方策について」

- 森田慎一郎 2006 大学生における職業の専門性への志向: 尺度の作成と医学部進学予定者の職業決定への影響の検討『発達心理学研究』, 17, 3, pp.252-262.
- 中村忠雄 2006 教職課程における特別支援教育に関する研究—開放性教師養成におけるカリキュラム開発—摂南大学教育学研究 2, pp.1-20.
- 中山博夫 2007 教職課程履修学生の志望意識の変容に関する事例研究—教職課程受講と教育実習での体験に着目して—目白大学総合科学研究 3, pp.83-93.
- 中山博夫 2008 一般就職を目指す学生にとっての教職課程教育のもつ意味に関する研究—教職課程受講学生の意識変容の事例に着目して—目白大学総合科学研究 4, pp.129-142.
- 織田成和 2011 特別活動に関する現代的考察—改訂学習指導要領を根拠として—近畿大学工学部紀要, 人文・社会科学篇 (41), pp.39-61.
- 佐藤学 1997 「序論=教師というアポリア<<中間者>>から《媒介者》へ>」, 『教師というアポリア [反省的实践へ]』, (世織書房, 横浜), p.11
- 山田礼子 2003 大学院改革の動向: 専門職大学院の整備と拡充. 教育学研究, 70, pp.148-164.
- 山口幸男編著 1999 シミュレーション教材の開発と実践 地理学習の新しい試み古今書院
- 安田利枝 2005 森林資源をめぐるシミュレーション・ゲームの実践事例—国際理解教育の教材開発を目的に—嘉悦大学研究論集 48(2), pp.43-61.